

令和6年度神戸市学校給食委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和6年12月13日（金）10時30分～12時00分
2. 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
3. 出席委員 西村委員長、小林委員、内藤委員、野並委員、宮澤委員、横谷委員、長崎委員、紀洲谷委員、赤松委員、福島委員、山出委員、中村委員
4. 議 事
 - (1) 中学校給食の全員喫食の実施状況
 - (2) 学校給食費の公会計化について
 - (3) 食材価格高騰への対応

【議事要旨】

(1) 中学校給食の全員喫食の実施状況

(事務局より資料3について説明)

●委員

- ・食缶による温かい給食はおいしく、子供も職員も喜んでいる。
- ・全員喫食開始にあたり事務局から研修をしていただいたり、先行実施校から有意義な情報を提供してもらったりしている。
- ・給食時間について35分を確保するために、朝の始業や昼休み、放課後の部活動等の時間で調整を行っている。大規模校においては、準備に時間がかかることが想定されるが、時間内に準備できるようにする必要があると考えている。
- ・給食関係のシステムが、学校現場で使用している他の校務システムと連携できれば有難い。
- ・中学校は教室以外に、特別支援学級や(自分の学級に入りづらい生徒のための)校内サポートルーム等へも配膳できるよう、できるだけ柔軟な対応をしてほしい。

●委員長

- ・各校の先生方の創意工夫の中で、中学校給食が上手く動き出している。
- ・情報共有のためにも事例集等があれば良い。

●委員

- ・全員喫食の実施に向けて、事務局から栄養教諭の派遣もあり学校の不安解消につながっている。また、既に実施している学校へ見学に行つて有益な情報をももらったりしている。

●委員

- ・お弁当にしたい家庭はどうするのか。

○事務局

- ・基本は全員に食べていただきたいが、宗教上の理由等、特別な事情がある場合は、学校と相談のうえ対応いただいている。

●委員

- ・給食を通じて、同じ楽しい時間を持つことが大事。

●委員

- ・親子調理方式対象校の中学校は小学校と同じ献立か。

○事務局

- ・基本は小学校と同じ献立だが、中学生に必要な栄養量に合わせるため、量を1.3倍にし、週に何回か小学校の献立に1品を追加している。

(2) 学校給食費の公会計化について

(事務局より資料4について説明)

●委員

- ・公会計化については、学校の負担軽減となり、良い取り組みである。
- ・未納世帯に対して、これまでは学校が顔の見える関係で対応していたが、公会計化後は事務局による対応となる。家庭の事情を考慮した対応も検討いただきたい。

●委員

- ・学校で行う業務として食数管理があるが、栄養教諭が配置されていない学校は担任の業務を行いながら管理をしているところもある。これまでとシステムが変わったことで負担を感じていることもある。
- ・また学校現場では、職種が多岐にわたるため、これにあわせた登録をすることが負担となっている。

○事務局

- ・給食費の支払いは、給与控除や口座振替で一度登録いただければ継続できる。ただし、臨時の喫食者がいる場合は都度登録いただく必要がある。
- ・中学校においては牛乳が選択制のため、最初の登録の際に個別に牛乳喫食の有無を登録いただく必要がある。

●委員

- ・担任がその業務をしなければならぬこともあり、難しいことは承知のうえだが、全校に栄養教諭を配置いただくと非常に助かる。

●委員

- ・国の栄養教諭の配置基準は、自校調理校では児童生徒数550人以上で1人、そ

れ未満だと4校に1人の配置となっている。また、給食センターについては、6,001人以上で3人の栄養教諭の配置がある。栄養教諭の配置については、教育委員会からも国に対し要望を挙げている。

- ・食数の管理については、栄養教諭以外の職員にも対応いただくことでお願いしている。

●委員

- ・栄養教諭になりたいと希望する学生は多くおり、兵庫県、神戸市ともに今年の採用試験の倍率は13倍～15倍となっている。より多くの栄養教諭を学校に配置いただけるよう採用についても検討いただきたい。

●委員

- ・不登校や転校した場合でも、毎月定額払いで実食払いではないのか。物価高騰による家計負担の問題もある中、登校していなくてもとりあえず給食費を支払っていることがあると聞く。

○事務局

- ・支払い方法については、基本は定額払いのうえ、(発注していない分は)2月に精算を行っている。
- ・事情により連続5日以上給食停止が見込まれる場合は、学校と相談のうえ、事前の給食停止届の提出により停止することもできる。

●委員

- ・光熱水費や人件費は市が負担するが、食材費は保護者に負担いただくこととなっている。食材発注後の急な変更対応は難しい。

(3) 食材価格高騰への対応

(事務局より資料5について説明)

●委員

- ・参考③で給食費1食単価が県内では神戸市が最高となっているが、要因は何か。

○事務局

- ・当該資料の本市の金額は、給食提供単価を記載している。保護者負担額としては兵庫県内の12市のうち小学校は8番目、中学校は半額助成をしており3番目の安さとなっている。
- ・大都市ということもあり、食材費は他の兵庫県下の市町よりも高い傾向にあるかもしれない。

●委員

- ・食材が高騰する中でも、食育の観点から、正月料理の雑煮など季節の献立を提

供いただいています。有難い。

- ・以前はケーキや神戸ビーフ等が給食に登場し、子供たちも大変喜んでいましたが、提供するのは厳しい状況か。

○事務局

- ・神戸ビーフについては、コロナ禍における国の事業者支援策の一環で給食に提供できていた。またケーキは小麦や乳アレルギー等の問題もあり、食べることが出来ない子供に対しての配慮等が必要となる。食材費高騰の影響もあり、提供が難しいのが現状である。

●委員長

- ・給食は先生と子供たちのコミュニケーションツールとなっている。できる工夫で楽しみにつながる給食を提供いただきたい。

○事務局

- ・昨年度の当委員会においても、子供たちがデザートを本当に楽しみにしており、値段が上がってもよいので続けてほしいとのご意見があった。
- ・単に栄養価を満たすだけでなく、子供たちの楽しみにつながるように工夫していきたい。

●委員

- ・中学生の意見に味が薄い等のコメントがある。おいしさや楽しみも大事だが、薄い味に慣れて健康に良い食事に導くのも給食の役割でもあると思う。
- ・食育等の観点からも管理栄養士・栄養教諭の職員配置の充実が必要と考える。

●委員長

- ・中学校給食の全員喫食がようやく始まった。これからなので、改善すべきところは改善し、良いところは皆さんからも意見していただきながら神戸の子供達にとってより良い経験につながるように実現して欲しい。